作成日 2002 年 02 月 22 日
改訂日 2024 年 02 月 25 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称：	ウロコクリーナー
製品コード：	US-101
会社名：	株式会社ビアンコジャパン
住所：	京都市南区吉祥院長田町 47 番地
担当部門：	営業企画部
電話番号：	075-693-5531（代表）
緊急時の電話番号：	075-693-5531（代表）
ＦＡＸ番号：	075-693-5522
メールアドレス：	bianco@biancojp.co.jp
推奨用途及び使用上の制限：	内外装建材の水アカの除去・洗浄

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

健康に対する有害性：

皮膚腐食性/刺激性	区分 3
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 2A

物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない」又は「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：警告

危険有害性情報：
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激

注意書き：
【安全対策】
取扱い後は、よく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
【救急処置】
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合：水で 15 分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物
化学名又は一般名：	－
成分及び含有量：	乳酸　30% スルファミン酸　9% その他の有機酸　3% 酸性フッ化アンモニウム　0.1%未満 水　残分（約 58%）
化学式及び構造式	$CH_3CH(OH)COOH$（乳酸） $NH_4F \cdot HF$（酸性フッ化アンモニウム）
分子量	90.08（乳酸） 57.04（酸性フッ化アンモニウム）
官報公示整理番号　化審法	(2)-1369（乳酸） (1)-311（酸性フッ化アンモニウム）
安衛法	公表化学物質
ＣＡＳ　Ｎｏ.	598-82-3、50-21-5（乳酸） 1341-49-7（酸性フッ化アンモニウム）
危険有害性成分	乳酸 酸性フッ化アンモニウム

4. 応急措置

吸入した場合：	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 直ちに、医師の診断、手当てを受ける。
皮膚に付着した場合：	直ちに汚染された衣服や靴を脱がせ、皮膚を多量の水で洗う。 着衣を利用する場合は洗濯してから用いる。
眼に入った場合：	直ちに、流水で 15 分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 まぶたを親指と人差し指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水が良く行き渡るように洗浄する。 直ちに、医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合：	ミルクなどを飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 直ちに、医師の診断、手当てを受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：	本品は不燃性であるが、周辺火災に適応した消化剤を用いる。
使ってはならない消火剤：	特に無し。
火災時の特有の危険有害性：	本品は不燃性であるが、加熱されると分解して、腐食性または毒性の煙霧を発生させるおそれがある。
特定の消火方法：	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 風上から消化活動をする。 環境に影響を出さないよう、出来るだけ流出を防止する。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項､保護具及び緊急時措置：	漏洩区域は、関係者以外の立ち入りを禁止する。 漏洩エリア内に立ち入る時は、保護具を着用する。 風上から作業をし、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 密閉された場所に立ち入る前に換気する。
環境に対する注意事項：	河川、下水道、土壌に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和：	漏洩物をウエス等で吸収し、密閉できる空容器に回収する。 回収した漏洩物は、後で適正に廃棄処分する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材：	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策：	すべての発火源や可燃性物質を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 近傍での火災に備えて、適切な消火器を準備しておく。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策：	「8.暴露防止及び保護措置」の項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取り扱い注意事項：	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。 眼および皮膚への接触を避ける。 換気を行う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取り扱い後は良く手を洗う。 作業衣は洗濯してから再使用する。
接触回避：	「10.安定性及び反応性」を参照。

保管

安全な保管条件：	直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い涼しい所で保管すること。 可燃性物質、強塩基、金属類から離して保管する。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
安全な容器包装材料：	ポリエチレン、ポリプロピレン。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度：	日本産衛学会　　２０２１年版	設定されていない。
	ＡＣＧＩＨ（ＴＬＶ－TWA）	2.5㎎/㎥（F として）
設備対策：	本品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 ミスト、粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置する。	

保護具

呼吸器用の保護具：	保護マスク等、必要に応じて適切な呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具：	不浸透性保護手袋。（ネオプレン、ブチルゴム製が推奨される。）
眼の保護具：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）顔面シールド。
皮膚及び身体の保護具：	長袖作業衣を着用する。
衛生対策：	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：	
形状：	液体
色：	無色
臭い：	有機酸臭
ｐＨ：	3.2
融点：	データなし
凝固点：	データなし
沸点：	データなし
引火点	なし（消防法の試験方法による）
可燃性	不燃性
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
相対ガス密度（空気＝１）：	データなし
密度又は相対密度：	1.15g/㎤（25℃）
溶解度：	水と混和する
オクタノール/水分配係数：	データなし
発火点：	データなし
分解温度：	データなし
粘度：	データなし
動粘度：	データなし
粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)：	通常の取り扱い条件で安定である。
危険有害反応可能性：	アルカリと接触するとアンモニアガスを発生する。 ガラス、金属、ケイ酸塩を侵す。 蒸発乾個成分を空気中で加熱するとフッ化水素ガス、フッ化アンモニウム煙霧を発生する。
避けるべき条件：	加熱及び混触危険物質との接触。
混触危険物質：	塩基性物質。
危険有害な分解生成物：	熱分解により、アンモニアガス、フッ化水素ガス、フッ化アンモニウム煙霧を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性：	（酸性フッ化アンモニウム） 経口マウス　　LD50　129mg/kg 経口モルモット　LDLo　150mg/kg/48H RTECS から、0.1%含有量換算すると、LD50　129,000mg/kg　になることから区分に該当しないとした。 皮下モルモット　LDLo　200mg/kg/48H 上記のデータから分類できないとした。 吸入（蒸気・ミスト） データがないため分類できない。
皮膚腐食性・刺激性：	（酸性フッ化アンモニウム） Priority2 においてヒトの皮膚に対して刺激を与え、熱傷を引き起こすとの記述がある（IUCLID(2000),SITTIG(4th,2001)）。EU リスク警句において皮膚への腐食性を示す"C; R34"と分類されている。 含有量0.1%未満から、乳酸より区分３とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	（酸性フッ化アンモニウム） ヒトの眼に刺激性を示すとの記述がある（HSDB(2003)， IUCLID(2000)，SITTIG(4th ,2001)）。 含有量0.1%未満から、乳酸より区分2A とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	分類できない。

生殖細胞変異原生：	分類できない。
発がん性：	OSHA、NTP の発がん性物質リストに該当していない。
生殖毒性：	分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：	（酸性フッ化アンモニウム） ヒトで、吸入すると気道、鼻、肺などの呼吸器系を刺激する。高濃度では肺水腫を引き起こす。 含有量 0.1%未満から区分に該当しないとした。
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：	（酸性フッ化アンモニウム） ヒトで、フッ素慢性毒性（珪上歯、フッ素骨沈着）が認められる。 含有量 0.1%未満から区分に該当しないとした。
誤えん有害性：	分類できない。

12. 環境影響情報

水性環境有害性　短期(急性)：	分類できない。
水性環境有害性　長期(慢性)：	分類できない。
残留性/分解性：	データなし。
生物蓄積性：	データなし。
土壌中の移動性：	データなし。
オゾン層への有害性：	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため区分に該当しないとした。

13. 廃棄場の注意

残余廃棄物：	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含めた廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。（参考・燃焼法） 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイ藻土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
汚染容器及び包装：	容器を清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMO の規定に従う。
航空規制情報	ICAO/IATA の規定に従う。
国内規制（適用法令）	
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号：	1727
国連分類：	8
品名：	酸性フッ化アンモニウム
国連包装等級：	該当しない
特定の安全対策：	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法：	名称等を通知すべき危険物及び有害物(第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) 【フッ素及びその水溶性無機化合物】
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	消防法上の非危険物
化学物質管理促進法（PRTR 法）：	第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1) 【番号 374：フッ化水素及びその水溶性塩】

16. その他の情報

参考文献

日本ケミカルデータベース㈱ 化学物質法規制検索システム
緊急時応急処置指針 容器イエローカード（ラベル方式）への適用
国立環境研究所 化学物質データベース（http://w-chemdb.nies.go.jp/）
厚労省 職場のあんぜんサイト
(https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenpg/GHSMSDFND.aspx)
国際化学物質安全性カード（ＩＣＳＣ）(http://www.nihs.go.jp/ICSC/)
NITE 化学物質総合検索システム ＧＨＳ分類結果データベース

この MSDS は、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証も成すものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。ご購入いただいた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので、万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。また記載の注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特別な取り扱いをする場合は、状況に適した安全対策を実施の上、充分な注意を払う必要があります。すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』と言う認識で扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の、指導の下で取り扱うことを警告します。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。